

Ep. 18

博物館の  
現場情報

## それでも前に…進むしかない!

博物館には、業界情報が圧倒的に足りない。これは、もともと銀行員だった私が、この業界に足を踏み入れて最初に思ったことでした。そんな中で、数百ページにわたる渾身の労作レポートを入手! これは素晴らしい資料になる、と開いてみると…。

昨年、ある民間調査機関がまとめた文化・学術機関のデジタルアーカイブ整備状況についてのレポートを読みました。博物館を中心に全国各館にアンケートを実施し、全体の概況から館個別の情報までを網羅した、得難い統計資料です。

PDFデータで公開されていたのですが、目を通してみるとそれはそれは大変な労作で、「お疲れさまです、ありがとうございます」と心の中で手を合わせて、数百ページにわたる全文をプリントアウトして会社の書棚に置きました。

先日、ある資料をまとめていた時のこと。ふとその存在を思い出し、手に取って開いてみたのですが…。

### アンケート調査の結果が…5年前と同じ…。

皆様よくご存知の通り、博物館でのデジタルアーカイブ事業は、思うように進んでいません。館運営の現場の視点で考えれば、率直に言って「それどころではない」館が圧倒的多数です。日々の来館者対応どころか、本来の学芸業務さえ十分な時間が取れない。これが、多くの博物館の現状です。

私たちシステム会社は、そうした状況を何とか打破しようと、ITを使った業務の軽減を提案します。もちろん、ほとんどの館は提案を喜んでくださり、「ぜひ実現したい」という意欲をお持ちです。しかし…言うまでもなく、そこには厳然たる予算の壁が存在します。

こうした日常は、全国の館にお邪魔している私の目から見ても一目瞭然です。現場の館の皆様は、日々の実感としてお持ちのはずです。しかし…。

私が見た調査資料では、各アンケート項目が詳細にレポートされていたのですが、表出した問題・課題は「予算不足、人員不

足である」の2点セットでした。この結果自体は私も日常的に感じておりますので理解はできるのですが、それにしても…と思わずにはいられません。なぜなら、5年前の他の調査でもまったく同じ結果が出ていたからです。

### 代表就任以来、ずっと、毎日「予算の壁」を見てきました…。

またまた手前みそになりますが、昨秋に発表いたしました弊社のI.B.MUSEUM SaaSは、「予算の壁をどうしても突破できない。ならば、収益を度外視してでも、各館が気軽に導入できるものを」と意気込んでサービス化したものです。

私も、弊社のスタッフも、何度も何度も繰り返し「無理だ」という回答を耳にし、学芸員の皆さんがそのたびにガッカリされる姿を見てきたからこそ、「何が何でも実現する」という決意を持って、通常業務の傍らで、社員総出で少しずつ形にしてみました。だからこそ、この「結論」には拍子抜けしました。

2005年ごろに「デジタルアーカイブ白書」という資料をひも解いた記憶があります。要するに、前に進んでいない…。



私たちシステム会社は、博物館、学芸員の奮闘ぶりを、この目で見ています。現状の厳しさも、骨身に染みる思いで理解しているつもりです。でも、やはり内部の事情に過ぎないんですね。レポートをまとめておられるのは博物館の世界ではご高名な先生ですが、きっとガッカリなさったことでしょう…。

そういえば、この「MAPPS情報ファイル」も、拙いながらも現場発の情報をまとめているのは「存在しないなら、自分で作るしかない」という思いからでした。私たちは、前に進めるのでしょうか…いや、進めるしかないのです!